

＝委員会報告＝

平成 3 年度消化器集団検診全国集計

- I. 胃集検全国集計
- II. 大腸集検全国集計
- III. 食道集検および肝胆膵集検全国集計

日本消化器集団検診学会全国集計委員会

山田	達哉 ¹⁾	・土井	偉誉 ²⁾	・岩崎	政明 ³⁾	・有末	太郎 ⁴⁾
久道	茂 ⁵⁾	・吉川	邦生 ⁶⁾	・北	昭一 ⁷⁾	・古賀	充 ⁸⁾
小野	良樹 ⁹⁾	・北條	慶一 ¹⁰⁾				

平成3年度消化器集団検診全国集計

I. 胃集検全国集計 II. 大腸集検全国集計 III. 食道集検および肝胆膵集検全国集計

日本消化器集団検診学会全国集計委員会

山田 達哉¹⁾・土井 偉誉²⁾・岩崎 政明³⁾・有末 太郎⁴⁾
久道 茂⁵⁾・吉川 邦生⁶⁾・北 昭一⁷⁾・古賀 充⁸⁾
小野 良樹⁹⁾・北條 慶一¹⁰⁾

はじめに

全国集計委員会が担当する全国集計は、今回でその9回目にあたる。平成3年度の調査は前年度と同様の方法で行った。平成4年11月初め、全国の検診機関に調査票を送り、平成5年1月末日を締切とした。

I 胃集検全国集計成績

1. 胃集検全国集計対象機関の区分と機関別受診者
検診機関を区分別にみると、追跡調査や検診の統計を最もよく行っているI群の割合は、間接集検機関では358ヵ所中333ヵ所(93.0%)、直接集検では146ヵ所中127ヵ所(87.0%)であり、前年度と比較して各々1.2%、2.1%、増加していた(表1)。

平成3年度の受診者総数は、6,253,038人で、発見胃癌の実数は6,831例(0.109%)であった。検診機関別の胃癌発見率をみると、I群は0.111%であったが、II群では0.063%、III群では0.088%と低い数値を示した。精検受診率を100%とした場合の推定発見胃癌数は9,292例(0.149%)であった(表2)。

胃集検の受診者総数の年次別推移をみると、図1に示すように平成3年度の受診者総数は約625万人になっており、前年度の約646万人と比べて、約21万人、前年度比3.3%減少していた(図1)。

2. 撮影装置と撮影方法

間接X線装置の使用状況をみると、全体の960台のうち、車検診と施設検診の合計で100mm間接は951台(99.1%)、I.I.間接は941台(98.0%)で、100mm間接のI.I.方式がほぼ定着していた(表3)。

胃X線撮影法について検診機関数を分母にしてみると、撮影枚数は間接集検では5枚が0%、6枚が9.8%で、7枚が65.9%、8枚以上が20.1%で、学会の勧告した標準枚数がかかなり定着していた(図2-a)。バリウムの濃度は間接集検では120-139%、直接集検では140%以上が最も多く使われ、バリウムの量は間接集検、直接集検ともに200-249mlが最も多く使われていた(図2-b, 2-c)。

撮影者については、間接集検では、医師が撮影する機関は0.8%、技師が行うものは92.5%、両者で撮影するもの2.0%であった。直接集検では医師が13.0%、技師は65.8%、両者が18.5%であった(図2-d)。

3. 読影状況

読影状況についてみると、検診機関に所属する医師で読影している機関は間接で59.8%、直接で76.0%であった(図3-a)。ダブルチェックは、間接集検で77.9%の機関が行っていたが、ダブルチェックを行っていない機関が17.3%あり、直接集検では28.1%であった(図3-b)。読影委員会を設置している機関は間接集検で46.6%、直接集検で42.5%であった(図3-c)。認定医の有無についてみると、間接

-
- 1) 国立がんセンター
 - 2) 岐阜大学 放射線科
 - 3) PL東京健康管理センター
 - 4) 北海道対がん協会検診センター
 - 5) 東北大学 公衆衛生学
 - 6) 長浜赤十字病院 消化器科
 - 7) 川崎医科大学 保健医療学
 - 8) 九州がんセンター
 - 9) 日本大学 内科
 - 10) 公立昭和病院

表1 胃集検全国集計対象機関の区分（平成3年度）

	機関数	
	間接集検 ¹⁾	直接集検 ²⁾
I群 性・年齢別に受診者、要精検者、精検受診者、発見胃癌患者が把握され、且つ癌患者の個人票の揃っているもの	333 (93.0%)	127 (87.0%)
II群 性・年齢別に集計されていないもの	15	9
III群 集検数のみ判明するもの	10	10
計	358	146

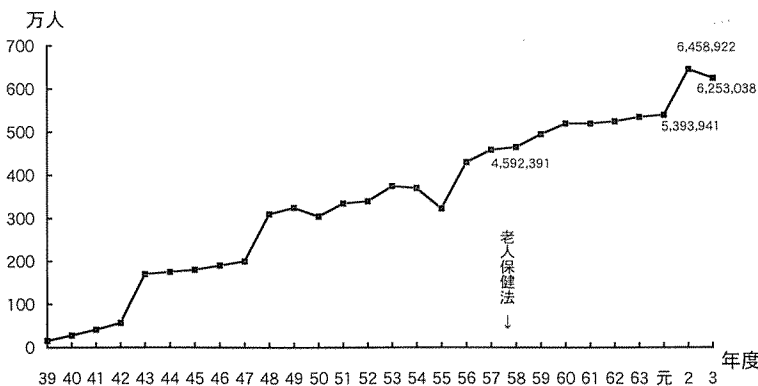
(注)：1) 間接X線撮影による胃集検のこと

2) 直接X線撮影による胃集検のこと

表2 対象機関別受診者数と発見胃癌数
(平成3年度，男女計，間接，直接の合計)

区分	受診者数	発見胃癌数 (実数)	率	(推定数)	(推定率)
I群	5,983,778	6,637	0.111%	8,958	0.150%
II群	172,393	109	0.063%	221	0.128%
III群	96,867	85	0.088%	113	0.116%
総計	6,253,038	6,831	0.109%	9,292	0.149%

* 推定率は各群の精検受診率（I群74.1%、II群49.2%、III群75.3%）を100とした場合、未受診者も受診者と同じ率で、胃癌が発見されるものとして算出したもの

図1 胃集検の年度別集計対象数の推移
(昭和39～平成3年度学会による全国集計)

集検を行っている検診機関では57.3%，直接集検の機関では，49.3%に認定医がいるという状況であった（図3-d）。

4. 精検後の管理

精検以後の管理の方法について，間接集検の場合について述べると，精検の実施方法では，自機関または一部他機関に委託しているもの90.5%，全部を

他機関に委託しているもの3.6%であった（図4-a）。要精検者に対する受診勧奨をしているのは91.3%（図4-b），精検結果の把握をしているところは95.0%（図4-c），精検未受診者への受診勧奨を行っているのは79.6%（図4-d），発見胃癌患者への治療の勧奨を積極的に進めているところは79.3%（図4-e），手術結果の調査をしているところは76.0%（図

4-f), またその予後調査をしているところは39.7%であった(図4-g)。直接集検の場合は, 発見癌患者への治療の勧奨をしているところが84.2%, 手術結果の調査をしているところは78.1%, 患者の予後調査をしているところは34.9%であった(図4-e~g)。

5. 稼動状況

間接集検での一台当りの年間稼動日数は車検診で平均119~148日, 施設検診で75~210日であった。一日当りの検診数は車検診で平均39~49人, 施設検診

で7~20人であった(表4)。

直接集検の場合, 施設検診だけになるが, 一台当りの年間稼動日数, 一台一日当りの検診数は表5に示すとおりである(表5)。

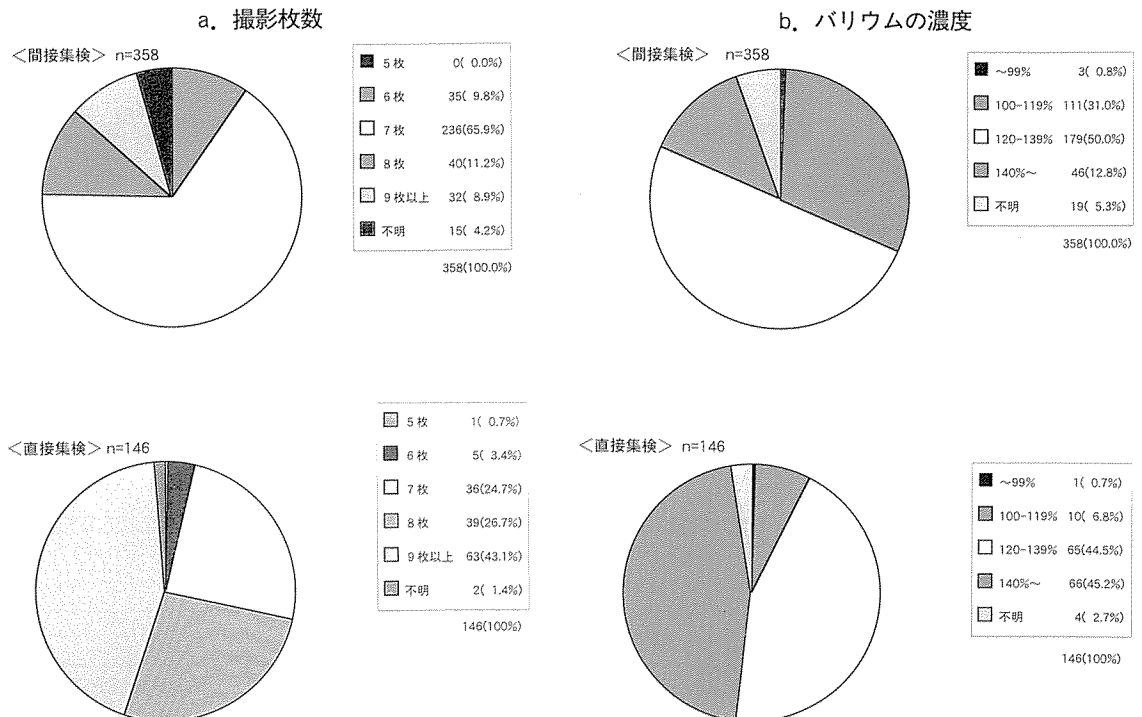
6. 地域・職域検診別の集検成績

地域検診と職域検診に分けて検討すると, 地域検診が3,333,603人, 職域検診が2,509,382人で前者が約57%を占めていた。地域検診と職域検診との要精検率を比較すると, 地域検診で13.9%, 職域検診13.7

表3 間接X線装置の使用状況とフィルムサイズ(平成3年度)

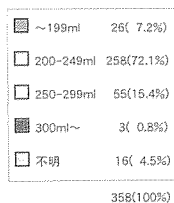
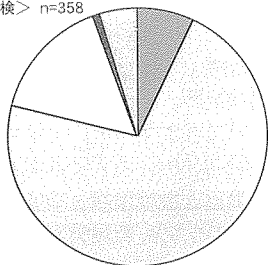
		車検診		施設検診		計
		70 mm	100 mm	70 mm	100 mm	
Ⅰ群	Ⅰ. Ⅰ. 間接	8 台	699 台	0 台	184 台	891 台
	その他	1 台	12 台	0 台	6 台	19 台
	小計	9 台	711 台	0 台	190 台	910 台
Ⅱ群	Ⅰ. Ⅰ. 間接	0 台	21 台	0 台	9 台	30 台
	その他	0 台	0 台	0 台	0 台	0 台
	小計	0 台	21 台	0 台	9 台	30 台
Ⅲ群	Ⅰ. Ⅰ. 間接	0 台	17 台	0 台	3 台	20 台
	その他	0 台	0 台	0 台	0 台	0 台
	小計	0 台	17 台	0 台	3 台	20 台
計(台)		9 台	749 台	0 台	202 台	960 台

図2



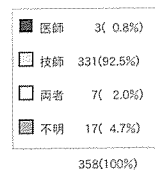
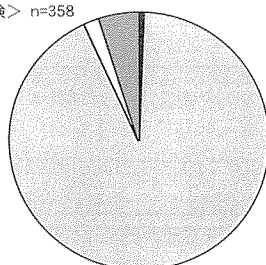
c. バリウムの量

<間接集検> n=358

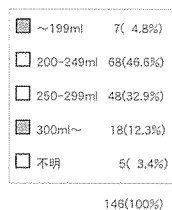
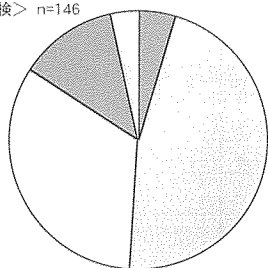


d. 読影者

<間接集検> n=358



<直接集検> n=146



<直接集検> n=146

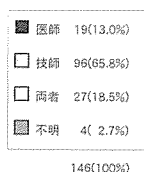
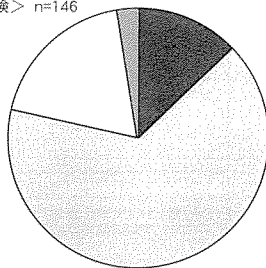
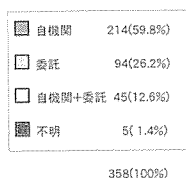
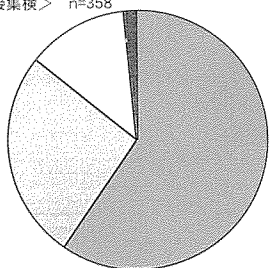


図3

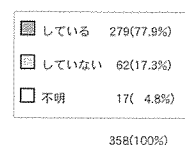
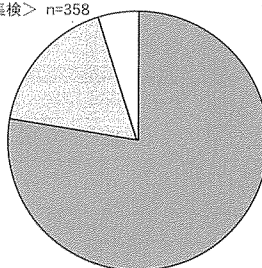
a. 読影者

<間接集検> n=358

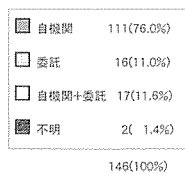
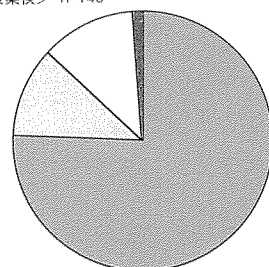


b. ダブルチェック

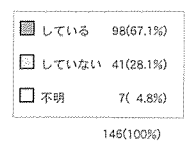
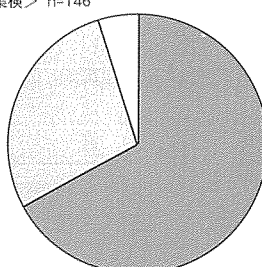
<間接集検> n=358



<直接集検> n=146



<直接集検> n=146



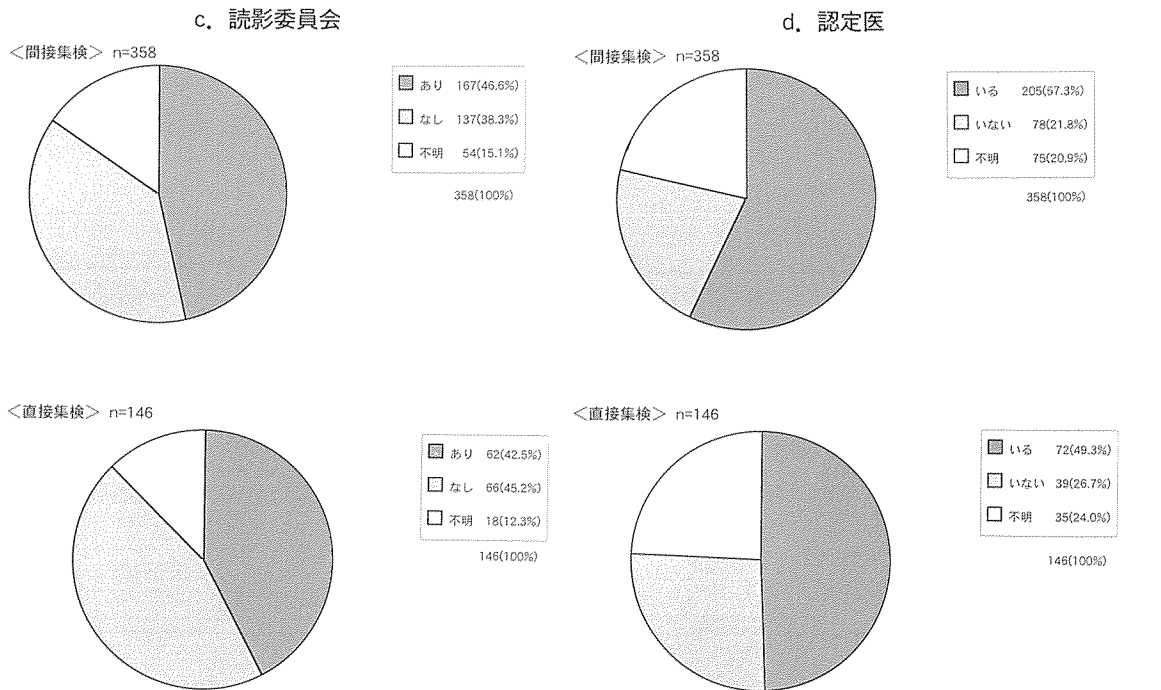
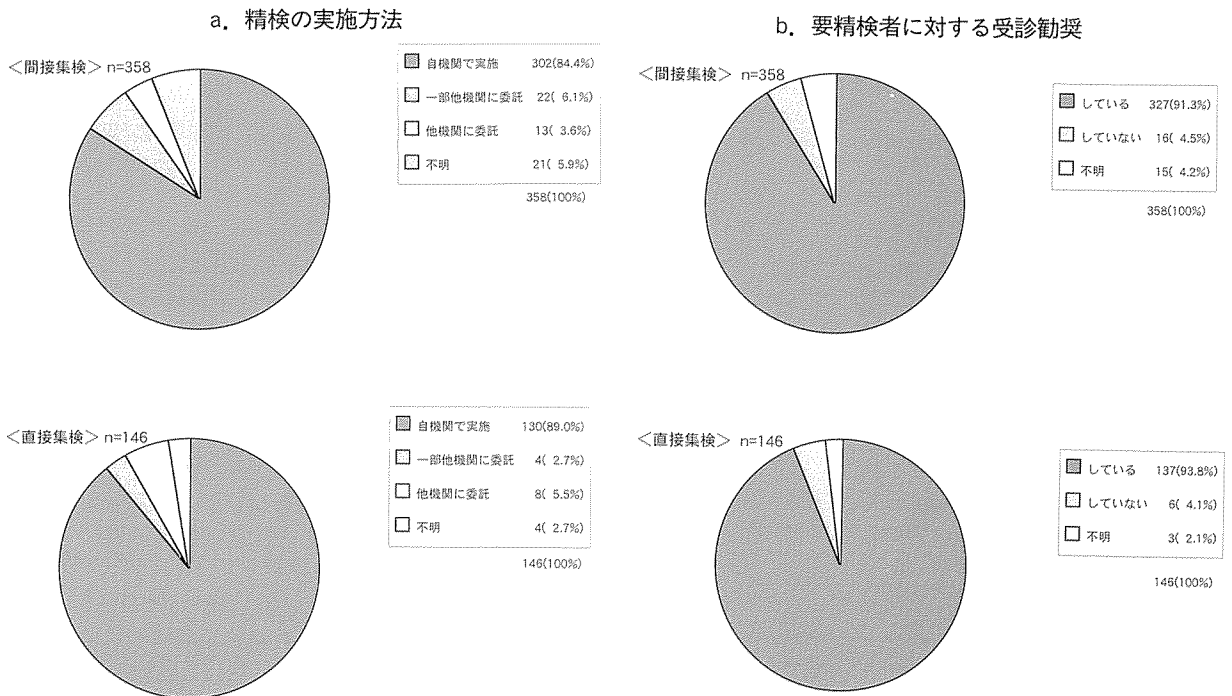
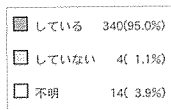
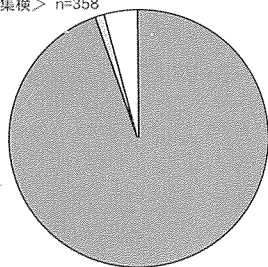


図4



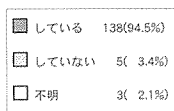
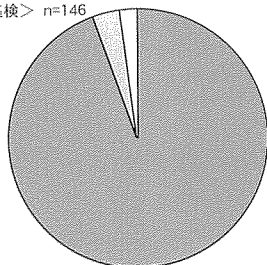
c. 精検結果の把握

<間接集検> n=358



358(100%)

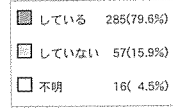
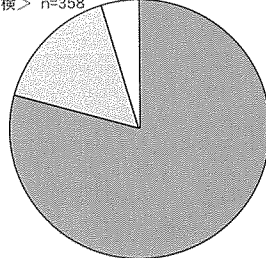
<直接集検> n=146



146(100%)

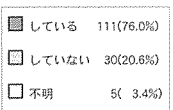
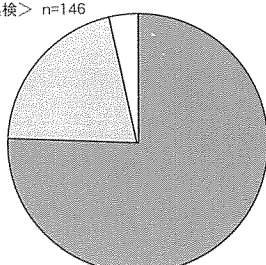
d. 精検未受診者への受診勧奨

<間接集検> n=358



358(100%)

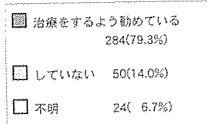
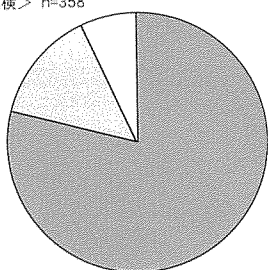
<直接集検> n=146



146(100%)

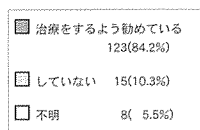
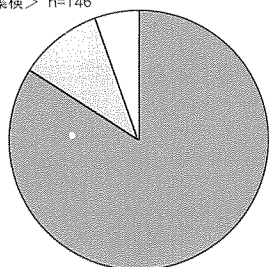
e. 発見癌患者の管理

<間接集検> n=358



358(100%)

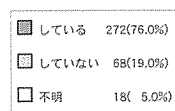
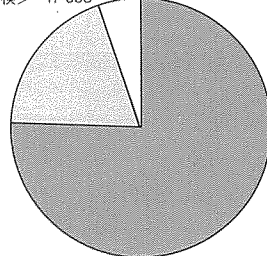
<直接集検> n=146



146(100%)

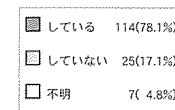
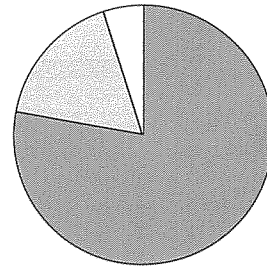
f. 手術結果の調査

<間接集検> n=358



358(100.0%)

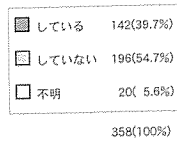
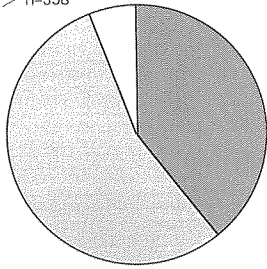
<直接集検> n=146



146(100%)

g. 発見癌患者の予後調査

<間接集検> n=358



<直接集検> n=146

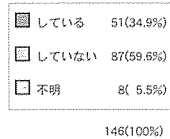
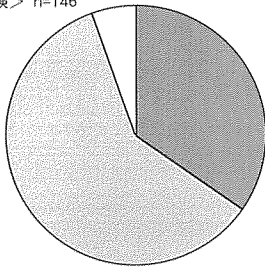


表4 間接集検の稼働状況 (平成3年度)

		車 検 診	施設検診
一台当たりの 年間稼働日数	I 群	137 日	151 日
	II 群	148 日	75 日
	III 群	119 日	210 日
一台一日当たり の検診数	I 群	40 人	19 人
	II 群	39 人	20 人
	III 群	49 人	7 人

表5 直接集検の稼働状況 (平成3年度)

一台当たりの 年間稼働日数	I 群	55 日
	II 群	44 日
	III 群	90 日
一台一日当たり の検診数	I 群	4 人
	II 群	3 人
	III 群	4 人

表6 地域・職域検診別の集検成績

(I, II, III群, 間接・直接集検の合計, 平成3年度)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	3,333,603	2,509,382	5,842,985
要 精 検 者 数	462,969	342,822	805,791
要 精 検 率	13.9%	13.7%	13.8%
精検受診者数	385,904	208,283	594,187
精 検 受 診 率	83.4%	60.8%	73.7%
発 見 胃 癌 数	5,008	1,515	6,523
発 見 率	0.15%	0.06%	0.11%
早 期 胃 癌 数	2,780	775	3,555
早期胃癌の割合	55.5%	51.2%	54.5%

%と、その差は殆ど認められなかったのに対し、精検受診率を比較してみると、各々83.4%と60.8%であり、両者に著しい差が認められ、職域検診の一次検診後の管理に依然として不備が感じられた。その結果、後述する職域検診での39歳以下の若年受診者の占める割合が多いこととあいまって、職域検診での胃癌発見率は0.06%と、地域検診の0.15%の3分の1という数値であった。早期胃癌の割合は、地域の55.5%に対し、職域は51.2%、合計では54.5%であった(表6)。また、間接集検について、地域と職域検診別に検討したものを表7に示した(表7)。

7. 性・年齢階級別受診者数および疾患発見率

直接、間接、地域、職域集検を合計した性・年齢階級別の受診者数は、図5に示した。男女とも40歳代前半にそのピークがあった。胃癌発見率は男で0.15%、女で0.08%、男が女の約2倍の発見率であったが、胃ポリープは男が0.67%、女が1.08%で、逆に女の方が1.6倍発見率は高かった。胃潰瘍は男が1.60%、女が0.54%で、男が3.0倍であった(表8、9)。

胃集検の対象年齢が40歳以上であるにもかかわらず、39歳以下の受診者は男女あわせて約55万人おり、これは全受診者数の11.6%を占めていた。これを地

表7 地域・職域検診別の集検成績
(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ群, 間接集検, 平成3年度)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	3,405,071	2,144,094	5,549,165
要 精 検 者 数	474,391	276,087	750,478
要 精 検 率	13.9%	12.9%	13.5%
精検受診者数	396,367	169,961	566,328
精 検 受 診 率	83.6%	61.6%	75.5%
発見胃癌数	5,100	1,017	6,117
発 見 率	0.15%	0.05%	0.11%
早期胃癌数	2,799	527	3,326
早期胃癌の割合	54.9%	51.8%	54.4%

図5 性・年齢階級別受診者数(平成3年度)
(地域, 職域, 直接・間接合計)

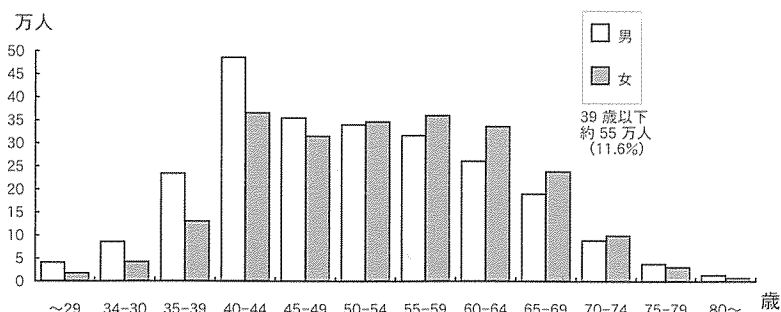


表8 性・年齢別胃集検全国集計成績—男性—直接・間接, 地域職域集検合計(平成3年度)

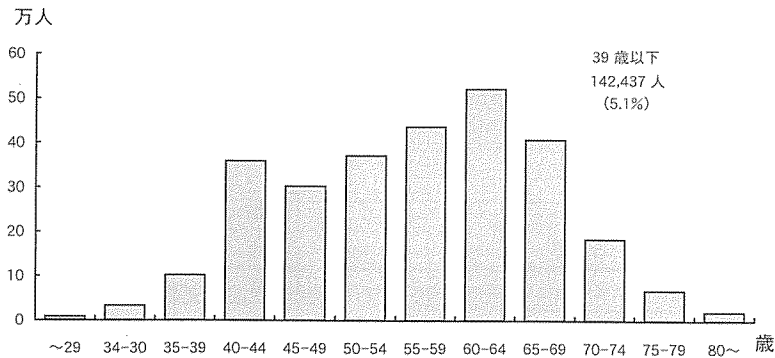
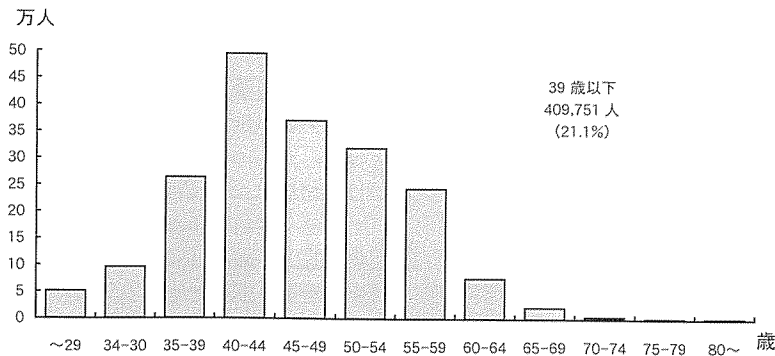
	総 数	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	70～
A 集検受診者数	2,537,547	42,154	87,841	239,034	493,806	361,186	347,054	323,702	265,684	192,823	89,969	38,561	13,727	19,742
B 要精検者数	400,963	3,378	8,483	27,259	66,917	51,761	56,201	58,420	53,037	39,855	18,510	7,973	2,525	4,252
B/A%	15.80	8.01	9.66	11.40	13.55	14.33	16.19	18.05	19.96	20.67	20.57	20.68	18.39	21.54
C 精検受診者数	295,476	1,976	5,531	17,966	46,619	35,756	39,444	42,378	41,930	33,392	15,990	6,897	2,077	3,643
C/B%	73.69	58.50	65.20	65.91	69.67	69.08	70.18	72.54	79.06	83.78	86.39	86.50	82.26	85.68
D 胃癌	3,840	0	12	43	178	225	337	543	763	816	476	225	96	123
D/A%	0.15	0.00	0.01	0.02	0.04	0.06	0.10	0.17	0.29	0.42	0.53	0.58	0.70	0.62
うち早期癌	2,109	0	6	23	113	127	166	312	443	428	264	121	40	65
胃癌切除数	2,500	0	6	20	106	142	204	364	522	549	323	149	44	68
組織所見判明数	2,359	0	6	17	97	123	195	334	498	528	307	142	45	65
胃癌疑い	183	0	0	7	21	6	21	28	33	35	15	5	5	7
非上皮性悪性腫瘍	57	0	1	2	3	2	1	6	7	20	8	5	1	1
胃腺腫(異型上皮)	550	2	0	9	14	27	37	73	106	133	87	47	11	3
胃ポリープ	16,967	42	141	571	1,599	1,650	2,161	2,707	2,959	2,493	1,351	656	208	384
胃潰瘍	40,704	160	528	2,281	6,598	5,150	5,618	5,951	5,940	4,673	2,099	823	243	479
十二指腸潰瘍	16,225	183	590	1,652	3,621	2,265	2,233	2,026	1,682	1,102	408	182	39	76
胃・十二指腸潰瘍	5,848	19	93	421	1,108	856	873	921	710	505	197	79	25	24
その他良性疾患	100,340	519	1,468	5,056	14,352	11,367	13,252	14,651	15,644	12,473	6,266	2,650	804	1,335
異常なし	108,220	1,038	2,617	7,633	18,573	13,666	14,571	15,083	13,965	11,015	5,013	2,213	646	1,202

* 70歳以上をさらに年齢区分していないもの

表9 性・年齢別胃集検全国集計成績—女性—直接・間接，地域職域集検合計（平成3年度）

	総数	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	70～*
A 集検受診者数	2,351,736	18,222	43,322	133,191	370,628	319,499	351,803	365,572	340,244	240,256	99,686	31,198	7,201	20,158
B 要精検者数	254,104	1,094	2,954	10,001	31,474	31,342	35,995	41,072	42,215	32,847	14,914	4,992	1,200	3,196
B/A %	10.80	6.00	6.82	7.51	8.49	9.81	10.23	11.23	12.41	13.67	14.96	16.00	16.66	15.85
C 精検受診者数	210,271	708	2,243	7,656	24,978	23,476	29,208	34,539	36,553	28,950	13,175	4,336	974	2,818
C/B %	82.75	64.72	75.93	76.55	79.36	74.90	81.14	84.09	86.59	88.14	88.34	86.86	81.17	88.17
D 胃癌	1,878	0	5	35	136	152	207	253	353	364	215	81	28	48
D/A %	0.08	0.00	0.01	0.03	0.04	0.05	0.06	0.07	0.10	0.15	0.22	0.26	0.39	0.24
うち早期癌	1,000	0	3	14	67	84	94	149	203	191	110	48	12	24
胃癌切除数	1,188	0	3	19	90	86	108	170	230	243	129	60	14	35
組織所見判明数	1,160	0	3	18	86	80	102	165	232	235	131	58	15	34
胃癌疑い	68	0	1	3	4	5	11	10	11	10	8	2	0	3
非上皮性悪性腫瘍	58	0	1	2	3	1	10	17	8	7	8	1	0	0
胃腺腫（異型上皮）	228	1	1	1	7	20	22	30	38	60	34	7	2	5
胃ポリープ	25,442	51	209	613	2,173	2,342	3,304	4,499	4,977	4,125	1,864	583	162	509
胃潰瘍	12,788	25	114	367	1,483	1,454	1,853	2,077	2,126	1,809	855	321	76	209
十二指腸潰瘍	6,053	18	78	304	1,033	822	973	982	870	602	219	64	14	45
胃・十二指腸潰瘍	2,171	3	12	67	293	292	336	403	398	215	98	39	9	3
その他良性疾患	66,828	176	559	1,933	6,973	6,839	8,857	11,019	12,388	10,231	4,803	1,641	351	933
異常なし	90,879	397	1,209	3,996	12,449	11,083	13,082	14,564	14,797	11,076	4,897	1,509	326	1,045

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

図6 地域検診の年齢階級別受診者数（平成3年度）
（直接・間接，男女合計）図7 職域検診の年齢階級別受診者数（平成3年度）
（直接・間接，男女合計）

域と職域検診に分けてみると，地域検診では39歳以下は男女あわせて142,437人，5.1%であったのに対し（図6），職域検診では39歳以下が409,751人，21.1

%と，39歳以下の若年層受診者の占める頻度が約4倍高かった。（図7）。

8. 発見疾患の年次推移

表10 発見疾患とその頻度（年次別推移）（男女計）

年度	62	63	平成元年	平成2年	平成3年
胃疾患					
A	5,551	5,815	4,477	5,823	5,724
胃癌	6,947	7,269	6,238	7,781	7,415
B/C	0.16	0.16	0.14	0.14	0.15
A	29,885	36,444	28,905	41,267	42,480
胃ポリープ	37,403	45,555	40,274	55,140	55,026
B/C	0.90	0.99	0.88	1.01	1.12
A	49,238	56,304	41,323	56,305	53,639
胃潰瘍	61,625	70,380	57,577	75,234	69,481
B/C	1.49	1.52	1.25	1.38	1.42
A	27,095	24,093	17,860	26,454	22,386
十二指腸	33,911	30,116	24,855	35,347	28,997
潰瘍	0.82	0.65	0.54	0.65	0.59
受診者総数	4,146,051	4,622,713	4,590,026	5,437,244	4,906,647

* 性別、5歳階級別に集計可能な受診者数を母数とした。

表11a 治療の種類
（平成3年度）

総 数	5,531
外科手術	5,240
内視鏡的治療	162
化学療法	31
無治療	71
そ の 他	27

表12 発見胃癌の占居部位
（平成3年度）

部 位	病 巣 数	%
C	871	15.0
M	2,651	45.6
A	2,193	37.7
全 体	101	1.7
合 計	5,816	100.0

表11b 手術の種類
（平成3年度）

総 数	5,240
治 癒 切 除	4,733
非 治 癒 切 除	311
吻 合 術	35
造 瘻	6
単 開 腹	43
ポリープ摘除術	6
そ の 他	106

表13 発見胃癌の占居部位Ⅱ
（平成3年度）

部 位	病 巣 数	%
小 彎	1,992	34.7
大 彎	841	14.6
前 壁	1,209	21.0
後 壁	1,424	24.8
全 周	280	4.9
合 計	5,746	100.0

表10は各胃疾患の発見率の年度別推移を表したものである。受診者総数(C)は、性別、5歳階級別に各疾患の発見数と頻度が算出可能なものを分母として算出したものである。表のうち、Aは発見実数、Bは要精検者が全員精検を受診した場合の推定患者数で、B/Cは推定発見率である。平成3年度は、胃癌0.15%、胃ポリープ1.12%、胃潰瘍1.42%、十二指腸潰瘍0.59%であった（表10）。

9. 発見胃癌患者の追跡調査

1) 手術成績

集計個票が全国集計委員会に送られてきた発見胃癌の成績をみると、治癒切除は、5,531例中4,733例（85.6%）であった（表11a, b）。多発癌は5,499例

表11c 癌病巣の数
（平成3年度）

単 発	5,038
2 個	278
3 個	40
4個以上	7
不 明	66
合 計	5,429

中325例(6.0%)を占めていた(表11c)。

2) 占居部位

発見胃癌の占居部位は、CMA区分で、多発癌も含めた病巣数でみると、Cが15.0%、Mが45.6%、Aが37.7%であった(表12)。壁在性でみると小彎が34.7%が最も多く、次いで後壁が24.8%で(表13)、前年度とほぼ同様な傾向がみられた。

3) 大きさ

長径1 cm以下の小胃癌が14.4%、1.1~2.0cmが23.4%で、あわせて37.8%であった(表14)。昨年度の45.1%に比べ小さい癌の発見頻度は低下し、一昨年度の水準となっていた。

4) 切除胃癌の深達度別割合

切除胃癌の深達度別頻度をみると、5,457例のうち、m癌が37.7%、sm癌が27.2%、あわせて64.9%であり、前年度より0.3%増加していた(表15)。

5) Stage分類

表14 発見胃癌の大きさ
(平成3年度)

長径(cm)	例数	%
~1.0	766	14.4
1.1~2.0	1,239	23.4
2.1~5.0	2,263	42.6
5.1~	1,038	19.6
合計	5,306	100.0

表15 切除胃癌の深達度別頻度(平成3年度)

総数	m	sm	pm	ss	s
5,457 (100.0%)	2,056 (37.7%)	1,486 (27.2%)	614 (11.3%)	673 (12.3%)	628 (11.5%)
	m+sm 3,542(64.9)	pm 614(11.3)	ss+s 1,301(23.8)		

表16 Stage分類(平成3年度)

Stage	例数	%
I	3,362	63.9
II	811	15.4
III	691	13.1
IV	399	7.6
計	5,263	100.0

Stage Iは63.9%、Stage IIは15.4%、Stage IIIは13.1%、Stage IVは7.6%であった(表16)。

6) 肉眼分類

従来と同様早期癌ではIIc型が最も多く55.7%を占めていた。進行癌のうち、Borrmann 4型が13.4%で、早期癌、進行癌あわせた全胃癌に占めるBorrmann 4型の割合は4.6%であった(表17, 18)。

7) 発見胃癌例の集検受診前歴

受診前歴の記載された胃癌4,562例について、集検受診歴区分でみると、初回発見例が全胃癌のうち26.8%を占め、1年前受診例、即ち2年連続受診で発見されたものが48.3%を占めた。

各受診歴区分毎の胃癌に占める早期胃癌の割合は図8の通りで、初回発見例が56.7%と最も低く、1年前受診群が70.1%と最も高く、初回発見群と1年前受診群との間に0.1%以下の危険率で有意差が認められた。さらに、2年前、3年前、4年前受診群の早期癌割合は各々62.4%、63.4%、61.2%であった(図8)。

10. 内視鏡胃集検の全国集計成績

一次スクリーニングとして内視鏡を用いた、いわ

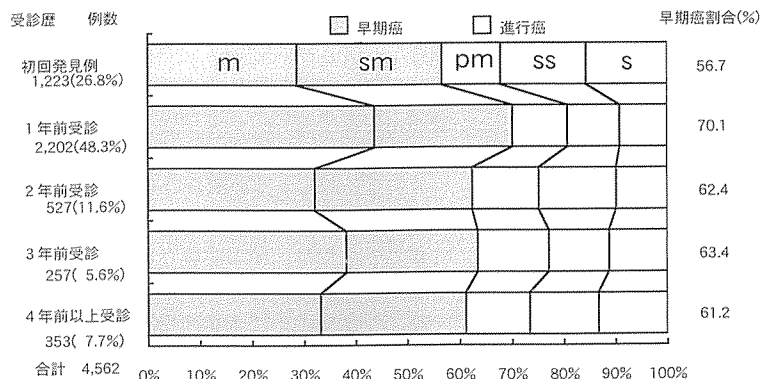
表17 早期胃癌の肉眼分類

肉眼分類	例数	%
I	215	5.8
IIa	534	14.3
IIa+IIc	375	10.0
IIb	65	1.7
IIc	2,080	55.7
IIc+III	173	4.6
IIc+IIa	122	3.3
III+IIc	25	0.7
III	19	0.5
その他の組み合わせ	128	3.4
計	3,736	100

表18 進行胃癌の肉眼分類(平成3年度)

肉眼分類	例数	%
1型	142	7.2
2型	648	32.7
3型	681	34.4
4型	265	13.4
5型	244	12.3
計	1,980	100.0

図8 発見胃癌例の集検受診歴と早期胃癌の頻度（平成3年度）

表19 内視鏡胃集検の全国集計成績
(平成3年度)

受診者総数	26,371 人
男	17,227 人 (65.3%)
女	9,144 人 (34.7%)
発見疾患と発見率	
胃 癌	88 (0.3%)
(うち早期癌 63 名)	(0.2%)
胃潰瘍	928 (3.5%)
胃ポリープ	900 (3.4%)
食道疾患	435 (1.6%)
(うち食道癌 3 名)	(0.01%)

(年間500人以上実施し、集計可能な機関についての集計)

表20 大腸集検全国集計対象機関の区分
(平成3年度)

		機関数
I 群	性・年齢別に受診者、要精検者、精検受診者、発見大腸癌患者が把握され、且つ癌患者の個人票の揃っているもの	93
II 群	性・年齢別に集計されていないもの	2
III 群	集検数のみ判明するもの	6
	計	101

ゆる内視鏡胃集検は、X線撮影法による胃集検のような受診者の性年齢区分をした詳細な集検成績の回答は求めず、前年度と同様簡単な集計にとどめた。対象も前年度と同様に、年間500人以上の内視鏡胃集検を施行した8ヵ所のみに限定した。このような条件で集計すると、内視鏡集検の受診者総数は26,371人、発見胃癌88例（発見率0.3%）であった。そのうち早期胃癌の占める割合は63例、71.6%と高率であ

表21 大腸検診の対象（重複回答）
(平成3年度)

地域	職域	個人	検診機関数
67	62	27	101
(66.3%)	(61.4%)	(26.7%)	

表22 大腸検診の Screening の方法
(平成3年度)

(1) 検便法	38 (37.6%)
(2) 検便法+問診	63 (62.4%)
(3) 直接法	0 (0%)
a.注腸	0 (0%)
b.全大腸内視鏡	0 (0%)
検診機関数	101

った（表19）。

II 大腸集検全国集計

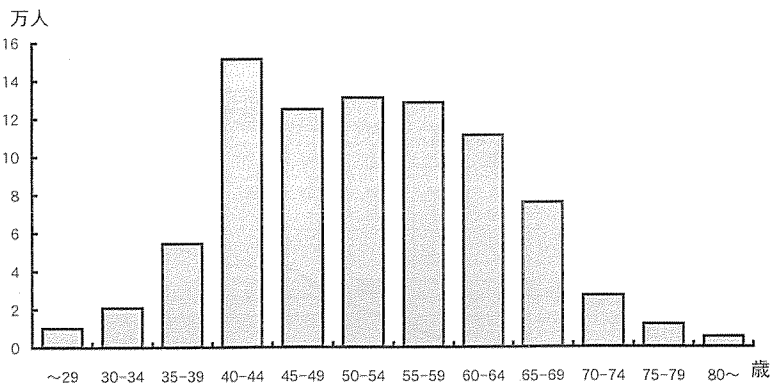
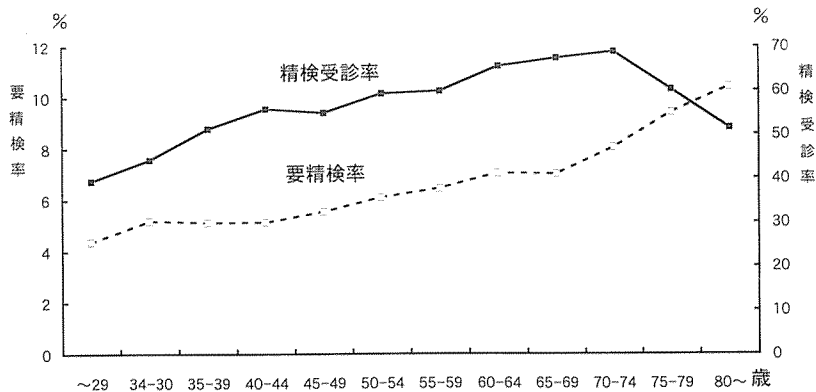
平成3年度に実施された大腸集検の全国集計調査に回答を寄せた機関は101ヵ所、対象区分は表21の通りである（表20）。

1. 大腸検診の受診対象

大腸検診の受診対象は表21に示すように重複回答であるが、101検診機関のうち地域検診は66.3%、職域検診は61.4%、個人検診は26.7%で行われていた。前年度と比べほぼ同様の傾向を示した（表21）。受診者の対象年齢は年齢制限無しの群が45.5%で最も多く、40歳以上の群が37.6%で、50歳以上の群は0%であった。

表23 大腸検診成績（男女計，平成3年度）

	地域	職域	個人	計
(1)受診者数	574,581	357,620	120,382	1,052,583
(2)要精検者数 (2)÷(1) (%)	32,654 (5.68)	19,482 (5.45)	11,732 (9.75)	63,868 (6.07)
(3)大腸癌患者数 (3)÷(1) (%)	788 (0.14)	290 (0.08)	239 (0.20)	1,317 (0.13)
(4)早期癌割合 (4)÷(3)(%)	332 (42.1)	160 (55.2)	173 (72.4)	665 (50.5)

図9 大腸検診受診者数の年齢階級別分布
(地域，職域，個人，男女計，平成3年度，総数853,239名)図10 大腸検診の要精検率および精検受診率
(地域，職域，個人，男女計，平成3年度)

2. 大腸検診の実施方法

大腸検診のスクリーニングの方法は，検便法だけによるものが37.6%，検便法に問診を加えた方法が62.4%であった(表22)。便潜血テストのうち，生化学的方法を用いているところは1ヵ所のみで免疫学的方法が92ヵ所で，免疫法がわが国で定着したことがうかがわれる。

3. 大腸検診の成績

平成3年度に行われた全国の男女合計の受診者総数は1,052,583人で前年度に比べ約21万人(25%)増加していた。要精検率は6.07%，大腸癌発見数は1,317例(0.13%)，うち早期大腸癌の割合は50.5%であった。対象区分別にみると大腸癌の発見率は個人検診0.20%，地域検診0.14%，職域検診0.08%の順であ

図11 大腸検診の大腸癌発見率及び早期癌割合
(地域、職域、個人、男女計、平成3年度)

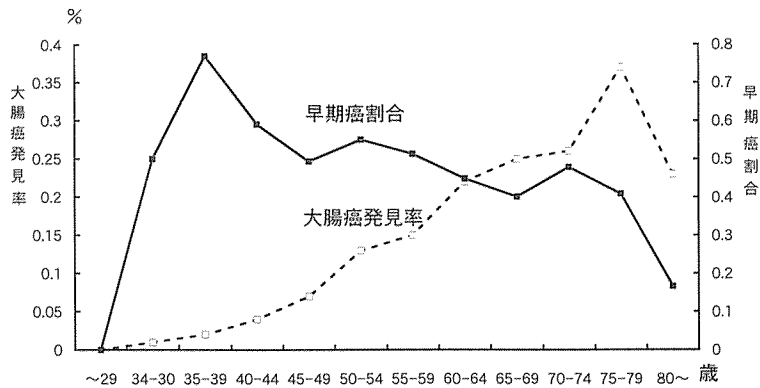


図12 大腸検診における大腸ポリープ(腺腫)および非腫瘍性ポリープの発見率
(地域、職域、個人、男女計、平成3年度)

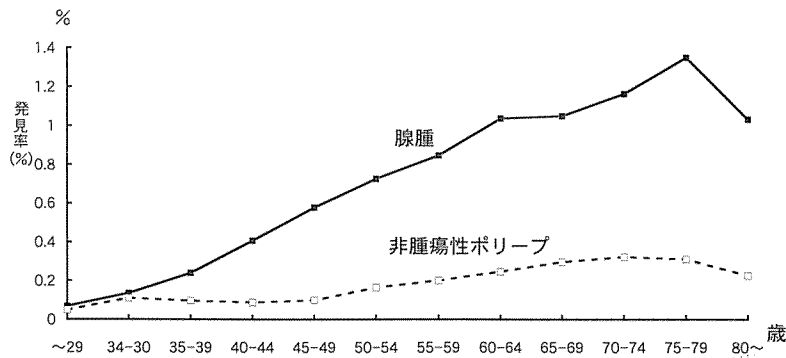


表24 大腸集検全国集計成績—男性—地域・職域・個人検診合計 (平成3年度)

	総数	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	70~*
A 集検受診者数	420,043	5,381	12,295	32,041	80,369	63,671	62,068	55,348	46,675	32,809	12,138	5,845	2,589	6,636
B 要精検者数	29,965	209	614	1,686	4,520	4,051	4,462	4,578	4,167	2,904	1,190	639	319	501
B/A %	7.13	3.88	4.99	5.26	5.62	6.36	7.19	8.27	8.93	8.85	9.80	10.93	12.32	7.55
C 精検受診者数	16,659	84	249	824	2,454	2,082	2,371	2,427	2,530	1,853	807	396	171	314
C/B %	55.59	40.19	40.55	48.87	54.29	51.39	53.14	53.01	60.72	63.81	67.82	61.97	53.61	62.67
D 大腸癌	729	0	1	9	37	52	115	121	161	123	45	32	10	23
D/A %	0.17	0.00	0.01	0.03	0.05	0.08	0.19	0.22	0.34	0.37	0.37	0.55	0.39	0.35
うち早期癌	371	0	0	7	24	30	67	68	78	55	18	14	2	8
(有茎ポリープ患者数)	200	0	0	4	18	23	39	31	39	29	8	3	2	4
大腸癌疑い	6	0	0	0	1	1	2	0	0	2	0	0	0	0
カルチノイド	4	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0
腺腫性ポリープ	4,227	5	13	90	425	541	669	730	779	512	205	102	38	98
非腺腫性ポリープ	906	2	17	36	90	74	135	153	154	138	58	30	6	13
潰瘍性大腸炎	30	0	1	4	8	4	7	1	1	3	0	0	0	1
クローン氏病	25	1	0	1	3	5	1	4	5	1	3	1	0	0
大腸憩室	1,335	1	24	67	187	201	187	180	212	136	73	28	13	17
その他良性疾患	1,277	7	22	78	217	155	152	163	176	156	62	30	9	36
異常なし	7,645	67	163	528	1,386	987	1,023	989	977	741	347	171	92	120

*70歳以上をさらに年齢区分していないもの

表25 大腸集検全国集計成績—女性—地域・職域・個人検診合計（平成3年度）

	総 数	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	70～*
A 集検受診者数	448,887	4,673	8,525	22,705	70,804	61,222	68,940	73,030	64,739	43,331	15,121	6,079	2,741	5,808
B 要精検者数	23,566	231	467	1,129	3,261	2,898	3,562	3,725	3,695	2,447	1,007	485	237	362
B/A%	5.25	4.94	5.48	4.97	4.61	4.73	5.17	5.10	5.71	5.65	6.66	7.98	8.65	6.23
C 精検受診者数	15,255	89	228	619	1,890	1,738	2,387	2,543	2,621	1,753	705	281	115	256
C/B%	64.73	38.53	48.82	54.83	57.96	59.97	67.01	68.27	70.93	71.64	70.01	57.94	48.52	70.72
D 大腸癌	413	0	1	4	29	31	61	70	89	69	26	12	2	19
D/A%	0.09	0.00	0.01	0.02	0.04	0.05	0.09	0.10	0.14	0.16	0.17	0.20	0.07	0.33
うち早期癌	175	0	1	3	15	11	30	30	34	22	16	4	0	9
(有茎ポリープ患者数)	60	0	1	1	5	9	9	12	12	7	4	0	0	0
大腸癌疑い	7	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	1	0	0
カルチノイド	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
腺腫性ポリープ	1,972	2	15	41	190	180	280	355	376	286	112	59	17	55
非腺腫性ポリープ	562	3	6	17	43	50	80	104	121	88	30	7	6	7
潰瘍性大腸炎	24	0	0	1	4	2	2	5	4	4	1	0	0	1
クローン氏病	29	1	0	1	3	5	7	5	4	1	1	1	0	0
大腸憩室	791	1	6	18	79	97	114	128	127	108	59	29	10	13
その他良性疾患	1,298	9	21	55	172	137	198	216	247	139	50	13	8	29
異常なし	9,787	71	175	465	1,321	1,192	1,576	1,580	1,590	1,020	412	151	71	143

*70歳以上をさらに年齢区分していないもの

表26 地域大腸集検全国集計成績—男性—（平成3年度）

	総 数	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	70～*
A 集検受診者数	172,162	1,072	2,308	6,474	22,466	16,688	18,979	22,738	31,670	26,241	10,241	5,027	2,324	5,880
B 要精検者数	12,428	33	99	317	1,208	1,040	1,249	1,725	2,577	2,092	896	526	258	403
B/A%	7.22	3.08	4.29	4.90	5.38	6.23	6.58	7.59	8.14	7.97	8.75	10.46	11.10	6.85
C 精検受診者数	8,013	17	51	174	718	585	772	1,076	1,735	1,460	680	342	148	253
C/B%	64.48	51.52	51.52	54.83	59.44	56.25	61.81	62.38	67.33	69.79	75.89	65.02	57.36	62.78
D 大腸癌	396	0	0	3	7	15	37	43	108	92	38	25	7	21
D/A%	0.23	0.00	0.00	0.05	0.03	0.09	0.19	0.19	0.34	0.35	0.37	0.50	0.30	0.36
うち早期癌	171	0	0	2	3	4	20	26	45	37	15	11	1	7
(有茎ポリープ患者数)	68	0	0	2	1	5	6	8	19	17	5	1	1	3
大腸癌疑い	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
カルチノイド	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
腺腫性ポリープ	2,038	1	11	120	135	205	316	495	399	164	81	34	76	
非腺腫性ポリープ	524	1	3	8	31	35	52	72	118	112	52	27	6	7
潰瘍性大腸炎	9	0	1	0	3	0	1	0	0	3	0	0	0	1
クローン氏病	8	0	0	0	1	1	1	2	0	2	1	0	0	0
大腸憩室	488	0	2	13	39	42	32	55	116	96	55	21	8	9
その他良性疾患	710	2	7	24	77	60	54	83	146	132	57	26	8	34
異常なし	3,693	13	34	110	417	285	377	489	724	601	301	158	83	99

*70歳以上をさらに年齢区分していないもの

った（表23）。

地域、職域、個人検診のうち、年齢が5歳階級別に報告された男女合計853,239人について年齢別頻度を検討すると、受診者数の年齢分布は40歳代前半にピークがあり、40歳代と50歳代があわせて62.8%、また、39歳以下は10.0%、また、70歳以上は5.2%を占めた（図9）。要精検率をみると、ほぼ加齢に伴って上昇しており、4.4～10.4%の数値を示した。精検受診率は29歳以下が特に低く40%以下であった。それ以外の年齢層でも70%を越えたものはなく、胃集検に比較して精検受診率が低い傾向がみられた（図10）。

大腸癌発見率も、ほぼ加齢に伴って上昇していた。早期大腸癌の割合は、35～39歳までの年齢層にピー

クがみられ、前年度に比べ、55歳以上の年齢層での早期癌の割合の低下を認めた。（図11）。

大腸腺腫の発見率は0.71%で、これは大腸癌の5.4倍の頻度であり、発見率は加齢とともに上昇していた。非腫瘍性ポリープの発見率は0.17%で、大腸癌とほぼ同様の発見率であった。加齢との関係は幾分みられたが、大腸癌や腺腫ほど明確ではなかった（図12）。

性・年齢階級別の大腸集検全国集計成績を表24、25に示した。男の受診者年齢層のピークは40歳代前半、女は50歳代後半であった。大腸癌発見率は男0.17%、女0.09%であった（表24、25）。

地域住民を対象とした大腸集検の全国集計成績を、表26、27に示す。受診者のピークは男が60歳代前半、

表27 地域大腸集検全国集計成績—女性—（平成3年度）

	総 数	～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～	70～*
A 集検受診者数	331,486	1,345	4,150	11,584	46,159	39,809	48,361	56,744	56,252	39,216	14,147	5,753	2,651	5,212
B 要精検者数	16,806	65	199	579	1,969	1,797	2,385	2,723	3,084	2,099	915	455	225	298
B/A%	5.07	4.83	4.80	5.00	4.27	4.51	4.93	4.80	5.48	5.35	6.47	7.91	8.49	5.72
C 精検受診者数	11,876	34	127	367	1,270	1,179	1,751	2,006	2,287	1,577	663	278	112	217
C/B%	70.67	52.31	63.82	63.39	64.50	65.61	73.39	73.67	74.16	75.13	72.46	61.10	49.78	72.82
D 大腸癌	313	0	0	3	18	14	45	49	69	62	23	12	2	16
D/A%	0.09	0.00	0.00	0.03	0.04	0.04	0.09	0.09	0.12	0.16	0.16	0.21	0.08	0.31
うち早期癌	125	0	0	2	10	2	18	20	27	20	14	4	0	8
(有茎ポリープ患者数)	31	0	0	0	2	1	4	6	9	5	4	0	0	0
大腸癌疑い	6	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	1	0	0
カルチノイド	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
腺腫性ポリープ	1,488	0	7	18	112	107	188	266	315	245	105	59	17	49
非腺腫性ポリープ	453	0	4	8	30	38	65	84	103	79	29	6	5	2
潰瘍性大腸炎	20	0	0	0	2	2	2	4	4	4	1	0	0	1
クローン氏病	18	0	0	1	3	4	5	0	2	1	1	1	0	0
大腸憩室	563	0	3	9	45	65	64	88	97	91	54	28	8	10
その他良性疾患	1,082	4	16	40	118	103	163	178	231	131	48	13	8	28
異常なし	7,748	30	96	287	922	819	1,194	1,298	1,422	938	394	150	71	121

*70歳以上をさらに年齢区分していないもの

表28 検診発見大腸癌の受診前歴
(男女計, 平成3年度)

発見大腸癌	1317 名
追跡調査患者	994 名
追跡率	75.5 %
初回受診者	578 名 (58.2%)
1 年前 "	325 名 (32.7%)
2 年前 "	53 名 (5.3%)
3 年前 "	16 名 (1.6%)
4 年以上前 "	22 名 (2.2%)
計	994 名 (100%)

表29 治療の方法
(男女計, 平成3年度)

手術	630 (57.2)
内視鏡的治療	465 (42.2)
その他	6 (0.5)
計	1,101 (100%)

女が50歳代後半であった。大腸癌発見率は男0.23%, 女0.09%であった (表26, 27)。

4. 発見大腸癌の追跡調査成績

1) 平成3年度の受診者1,052,583人から発見された大腸癌は1,317例, うち深達度や病理組織診断などのデータが得られた数 (個人票の形で送られてきたもの) は994例, 追跡率75.5%であった。なお, 以下に述べる各表の割合は, 該当項目未記入のものを除い

表30 手術の種類
(男女計, 平成3年度)

結腸切除	390 (63.4)
直腸切除	133 (21.6)
直腸切断 (人工肛門造設)	38 (6.2)
その他	34 (5.5)
不 明	20 (3.3)
計	615 (100%)

表31 癌病巣の数
(男女計, 平成3年度)

単発	979 (91.1)
2 個	64 (5.9)
3 個	19 (1.8)
4 個以上	10 (0.9)
不 明	3 (0.3)
計	1,075 (100%)

たため合計数が異なり, したがって, 分母は異なる。58.2%が初回受診者, 32.7%は1年前受診者であった (表28)。

2) 治療の方法

手術を行ったもの630例 (57.2%), 内視鏡ポリーペクトミーは465例 (42.2%) であった (表29)。

3) 手術の種類

手術のうち結腸切除術が390例 (63.4%), 直腸切除術が133例 (21.6%), 人工肛門を造設した直腸切

断術は38例(6.2%)であった(表30)。

4) 癌病巣の数

単発は979例(91.1%), 多発は93例(8.6%)であった(表31)。

5) 占居部位

発見大腸癌の占居部位は1,145例(重複)中, 最も多いのがS状結腸で513例(44.8%), ついで直腸の333例(29.1%), 以下上行結腸112例(9.8%), 横行結腸89例(7.6%), 下行結腸69例(6.0%)の順であった(表32)。

表32 癌病巣の部位
(男女計, 平成3年度)

部 位	例 数
肛 門 管 (P)	2 (0.2)
直 腸 (R)	333 (29.1)
S 状 結 腸 (S)	513 (44.8)
下行結腸 (D)	69 (6.0)
横行結腸 (T)	89 (7.8)
上行結腸 (A)	112 (9.8)
盲 腸 (C)	27 (2.3)
計	1,145 (100%)

表33 早期大腸癌の肉眼分類
(男女計, 平成3年度)

Ip	398 (59.4)
Is	158 (23.6)
II a	56 (8.4)
IIa+IIc	31 (4.6)
II b	0 (0)
II c	4 (0.6)
III	3 (0.4)
その他	20 (3.0)
計	670 (100%)

表34 進行大腸癌の肉眼分類
(男女計, 平成3年度)

1 型	68 (16.9)
2 型	287 (71.2)
3 型	43 (10.7)
4 型	3 (0.7)
5 型	2 (0.5)
計	403 (100%)

6) 大腸癌の肉眼分類

早期癌では, I p 型が398例(59.4%)で過半数を占め, II c 型は4例(0.6%)のみであった(表33)。進行癌では2型が287例(71.2%)で最も多く, 4型は3例(0.7%)のみであった(表34)。

7) 大きさと環周度

直径1.0cm以下のもの245例(23.7%), 1.1~2.0cmが342例(33.1%)と2cm以下が過半数を占めた(表35)。環周度は1/3以下が602例(68.7%)で過半数を占めたが, 全周も67例(7.6%)に認められた(表36)。

8) Stage 分類

Stage I は532例(56.3%), Stage II は119例(12.6%), Stage III は103例(10.9%), Stage IV は44例(4.7%)

表35 大腸癌の大きさ(長径)
(男女計, 平成3年度)

大きさ (cm)	病巣数
~ 1.0	245 (23.7)
1.1 ~ 2.0	342 (33.1)
2.1 ~ 3.0	172 (16.6)
3.1 ~ 4.0	106 (10.3)
4.1 ~ 5.0	82 (7.9)
5.1 ~ 6.0	48 (4.6)
6.1 ~	39 (3.8)
計	1,034 (100%)

表36 大腸癌の環周度
(男女計, 平成3年度)

1/3 以下	602 (68.7)
1/2 以下	101 (11.5)
3/4 以下	60 (6.9)
3/4 以上	46 (5.3)
全 周	67 (7.6)
計	876 (100%)

表37 大腸癌の Stage 分類
(男女計, 平成3年度)

Stage I	532 (56.3)
Stage II	119 (12.6)
Stage III	103 (10.9)
Stage IV	44 (4.7)
Stage V	21 (2.2)
不 明	126 (13.3)
計	945 (100%)

%), Stage V は 21 例 (2.2%) であった (表 37)。

9) 深達度分類

Ca-in-situ は 144 例 (13.3%), m 癌は 347 例 (32.0

表 38 大腸癌の深達度
(男女計, 平成 3 年度)

Ca-in-situ	144 (13.3)
m	347 (32.0)
sm	177 (16.3)
pm	118 (10.9)
ss (a1)	173 (15.9)
s (a2)	62 (5.7)
si (ai)	20 (1.8)
不 明	45 (4.1)
計	1,086 (100%)

表 39 大腸癌の Dukes 分類
(男女計, 平成 3 年度)

Dukes A	572 (60.2)
Dukes B	106 (11.1)
Dukes C	130 (13.7)
不 明	143 (15.0)
計	951 (100%)

表 40 転移の有無
(男女計, 平成 3 年度)

	a. リンパ節転移	b. 遠隔転移
な し	627 (66.1)	747 (79.7)
あ り	139 (14.7)	30 (3.2)
不 明	182 (19.2)	160 (17.1)
計	948 (100%)	937 (100%)

表 41 大腸癌の組織型分類
(男女計, 平成 3 年度)

高分化腺癌(well)	789 (73.3)
中分化腺癌(mode)	195 (18.1)
低分化腺癌(por)	7 (0.6)
未分化癌(undiff)	0 (0)
粘液癌(muc)	8 (0.7)
印環細胞癌(sig)	1 (0.1)
特殊型	4 (0.4)
不 明	73 (6.8)
計	1,077 (100%)

%), sm 癌は 177 例 (16.3%), これら 3 者の合計で 61.6% を占めた。進行癌を深達度別にみると, pm は 118 例 (10.9%), ss (a1) 173 例 (15.9%), s (a2) 62 例 (5.7%), si (ai) 20 例 (1.8%) であった (表 38)。

10) Dukes 分類

Dukes A は 572 例 (60.2%), Dukes B は 106 例 (11.1%), Dukes C は 130 例 (13.7%) であった (表 39)。

11) 転移の有無

リンパ節転移ありは 948 例中 139 例 (14.7%), なしは 627 例 (66.1%) であった。遠隔転移ありは 937 例中 30 例 (3.2%), なしは 747 例 (79.7%) であった (表

表 42 食道集検の全国集計成績 (平成 3 年度)

受診者総数	396,863 人
男	250,799 人 (63.2%)
女	125,025 人 (31.5%)
性別不明	21,039 人 (5.3%)
発見疾患と発見率	
食道癌	34 名 (0.01%)
食道ポリープ	199 名 (0.05%)
食道潰瘍またはびらん	97 名 (0.02%)
静脈瘤	158 名 (0.04%)
その他の疾患	1,517 名 (0.38%)

表 43 肝胆膵集検の全国集計成績 (平成 3 年度)

受診者総数	650,326 人
男	363,229 人 (55.8%)
女	244,924 人 (37.7%)
性別不明	42,173 人 (6.5%)
発見疾患と発見率	
肝癌 (原発性)	116 名 (0.02%)
肝癌 (転移性)	33 名 (0.005%)
肝硬変症	383 名 (0.06%)
脂肪肝	48,171 名 (7.4%)
肝嚢胞	32,545 名 (5.0%)
胆嚢癌	19 名 (0.003%)
胆嚢ポリープ	30,853 名 (4.7%)
胆石症	15,484 名 (2.4%)
脾 癌	22 名 (0.003%)
脾石症	88 名 (0.01%)
脾嚢胞	613 名 (0.09%)
その他	38,416 名 (5.9%)

40)。

12) 組織型分類

病理組織検査を行った1,077例中、高分化腺癌が789例(73.3%)で最も多く、ついで、中分化腺癌が195例(18.1%)であった(表41)。

以上、大腸検診の全国集計の概要を述べたが、今回の大腸検診全国受診者総数の約105万人は、昨年度に比べ増加しているものの、まだ少な目の数値と考えられる。また、老人保健法の保健事業として組み入れられていない現状で、大腸集検の定義、特に地域検診か職域検診かの区別が不明確のままの調査であったため、今回の集計は前回と同様個人検診の数もすべて一緒にして集計した。

III 食道集検および肝胆膵集検全国集計

1. 食道集検

食道集検は全国で80の機関で行われており、受診者総数は396,863人であった。また、発見食道癌は34例(0.01%)、食道ポリープ199例(0.05%)、食道潰瘍またはびらんが97例(0.02%)、静脈瘤は158例(0.04%)であった(表42)。

2. 肝胆膵集検

肝胆膵集検は、全国80の機関で実施され、受診者総数は650,326人であった。発見疾患は、脂肪肝7.4

%, 肝嚢胞5.0%, 胆嚢ポリープ4.7%, 胆石症2.4%であり、少数例ではあるが肝硬変症383例(0.06%)、原発性肝癌116例(0.02%)、胆嚢癌19例(0.003%)、膵癌22例(0.003%)等が発見された(表43)。

IV まとめ

平成3年度の消化器集検全国集計について要約すると以下のようになる。

(1)胃集検については、受診者総数が約625万人で、前年度比-3.3%、約21万人の減少、要精検率は13.8%、精検受診率73.7%、発見胃癌は6,831例(発見率0.11%)であった。早期癌の割合は、発見胃癌のうち54.4%であった。地域集検は、全体の約53%の333万人であった。

(2)大腸集検は全国で約105万人、前年度比+25%、約21万人の増加、要精検率6.07%、精検受診率59.6%、発見大腸癌1317例(発見率0.13%)、早期癌の割合は50.5%であった。スクリーニング法は免疫法を用いている機関が98.9%を占めていた。

なお、アンケートの回答をおよせいただいた全国の検診機関、および学会の役職員や事務局の方々、各県の全国集計協力委員、認定医の先生方の絶大な協力に対して厚く御礼申し上げます。

本稿で発表できなかった集計資料は、平成3年度消化器集団検診全国集計資料集(1部2,800円、送料別)としてまとめてありますので、ご希望の方は学会事務局までお申し込み下さい。